

# 観光立国を先導する世界トップクラスの 観光地域づくりに向けて

観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくりセミナー in 知床ねむろ

～EKARI(エカリ) 壮大な自然・野生動物と出会い  
酪農と鮭に紡がれた文化を巡る 知床ねむろから観光を考える～

天然記念物のオオワシ(羅臼町)



出典：釧路開発建設部

鮭の水揚げ(標津町)



出典：知床ねむろ観光連盟

広大な牧場(中標津町)



出典：知床ねむろ観光連盟

国土交通省 北海道局

2023年12月1日

## 第9期北海道総合開発計画(案)

目標1「我が国の豊かな暮らしを支える北海道

～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」

目標2「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造

～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

## 第9期北海道総合開発計画の主要施策(観光)

### 「観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり」

主要施策の実現に向けた施策の基本的方向

(1)世界市場に向けた新たな観光コンテンツの創出・拡充と稼ぐ力の向上

・観光の高付加価値化による「稼ぐ力」の向上

・自然や歴史文化を掘り起こして北海道の可能性をコンテンツ化するとともに、それらを相互に連携させることで新たな観光コンテンツとして創出・拡充

(2)多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備

(3)自然環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光地域づくり

・先人たちが守ってきた地域の価値を高め、保存し、次世代に受け継ぐことで、観光を地域の経済や社会の持続的発展につなげ、地域住民が観光による恩恵を実感できることも必要

### 「世界トップクラスの観光地域」とは、

そこでしか得られない「特別な体験」が地域にあることに気付き、それを観光資源として活かしてビジネスへと高め、地域が一体となって支え合っている地域。

## 【現状・背景】

- 北海道内における7空港一括運営委託を受け、各空港からの二次交通を支える交通ネットワークの強化が必要。
- 広大な北海道における観光周遊の定時性・速達性の実現により広域観光周遊ルートの魅力の向上に努めることが必要。
- 北海道横断自動車道網走線・根室線の整備により、主要観光地への更なるアクセス向上に寄与し、道東地域への来訪客増加や新たな観光周遊ルート形成が期待される。

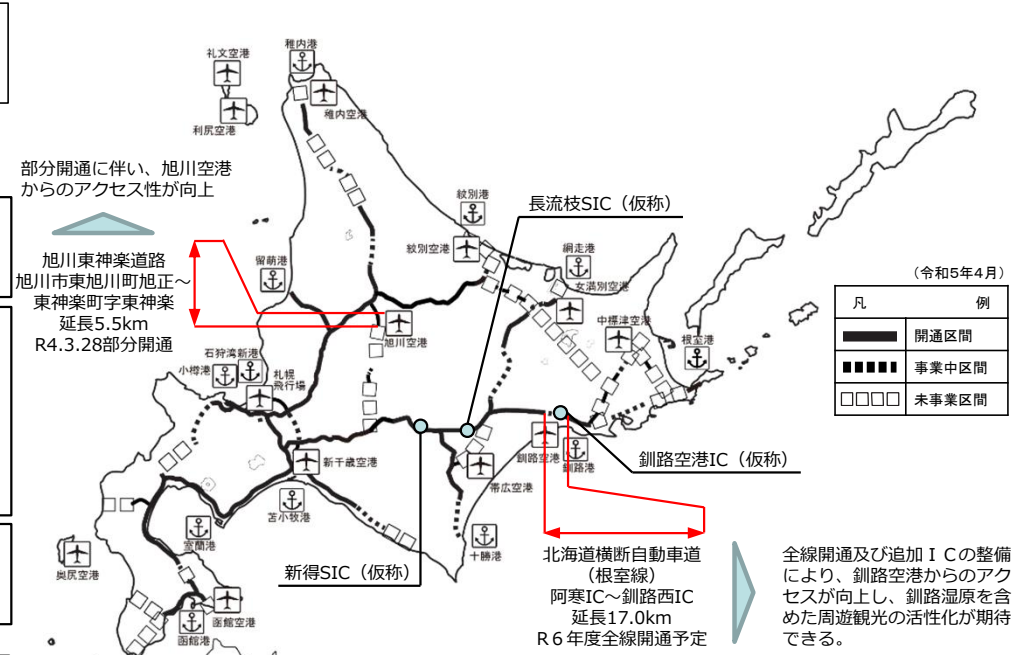
## 【取組】

- 観光地や空港への定時性・速達性を向上させる高規格道路等の整備を推進（北海道横断自動車道(根室線)阿寒IC～釧路西IC間【令和6年度全線開通予定】等）。
- 地域活性化ICを始めとする追加ICの整備を推進することで、空港や観光地のアクセス性をより向上させ、周遊観光の活性化を促進。

## ■広域観光周遊ルートの形成に資する道路整備 (高規格道路 北海道横断自動車道 網走線・根室線)



## ■空港等拠点からの二次交通を支える交通ネットワーク



## 声 【道内大手旅行会社】

・網走は、オホーツク観光の拠点となる都市で、夏・冬ともに宿泊地として利用することが多いです。

・端野高野道路等の高規格道路ネットワークの整備により移動時間が短縮されると、新千歳空港を発着するツアーで回る観光地を増やすことや、観光地の滞在時間を長くすることができると考えており、早期整備を期待しています。

## 旭川東神楽道路(部分開通)

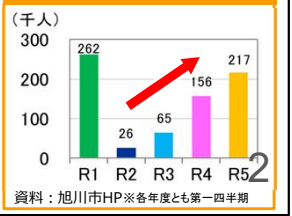


【旭川東神楽道路開通区間に伴う所要時間の変化】

バイパス区間	夏期		冬期	
	整備前	9.4分	10.8分	10.8分
バイパス区間開通後 (R4.3.28)	夏期	6.8分	2.6分短縮	
	冬期	7.7分	3.1分短縮	

資料：バイパス整備区間(旭川市東旭川町旭正～東神楽町字東神楽、延長5.5km)における所要時間

## 旭川空港乗降客数



○ 「シーニックバイウェイ北海道」において、魅力ある道路景観を地域の重要な観光資源の一つとして確立するため、特に魅力的な区間について景観の維持・形成、情報発信を重点的に推進するシーニックバイウェイ「秀逸な道」の取組を引き続き推進し、地域との協働を通じて生産空間のコミュニティ維持を推進する。

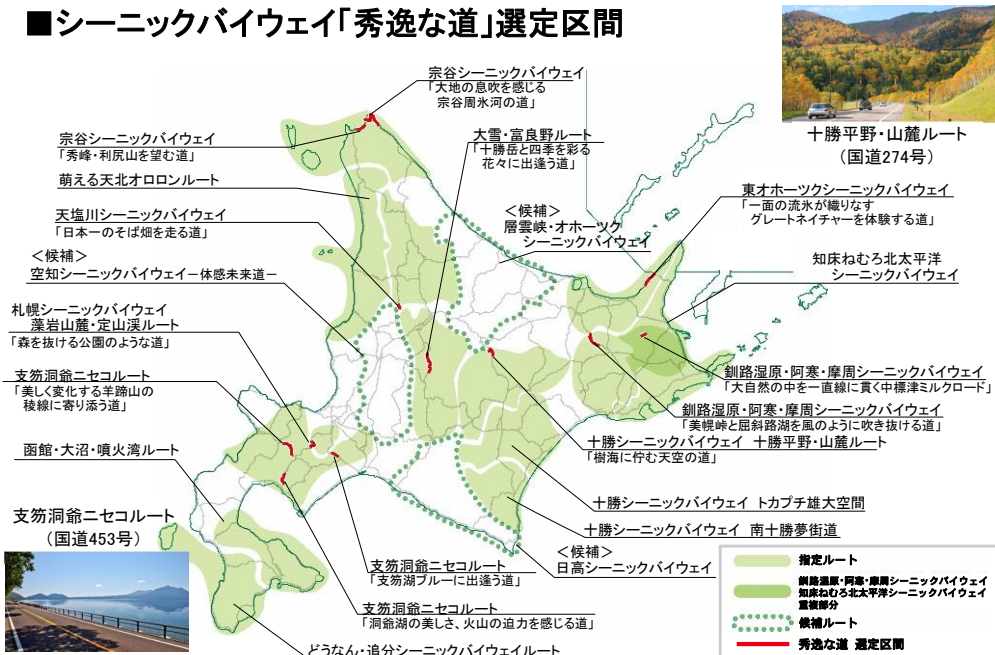
## 【現状・背景】

- 北海道は観光地間の距離が長く、移動そのものを楽しむドライブ観光促進が重要。雄大な道路景観は重要な地域資源の一つ。
- ドライブ観光促進に向けて、沿道景観を保全する総合的な施策を展開するため、「シーニックバイウェイ北海道」を全国に先駆けて平成17年3月から本格展開。
- 地域と行政が連携し、指定14ルート、候補3ルートの約500団体が景観・地域・観光空間づくりに参画(令和5年4月時点)。
- 平成30年から北海道の道路を、観光客を呼び込む「みち」に育てていく「秀逸な道」の試行を実施し、地域への愛着・誇りのより一層の形成にも貢献。令和5年4月時点で12区間が選定。

## 【取組】

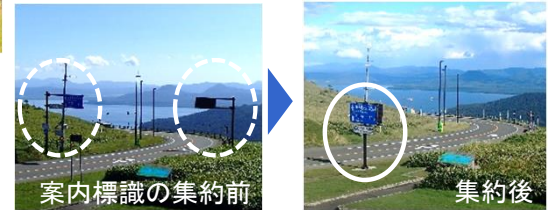
- 「秀逸な道」として選定した12区間について、景観の維持・形成、情報発信等の取組の推進や拡充を図り、多様な関係主体の連携の下、地域の観光資源として活用することにより、北海道のドライブ観光をより一層促進。
- 地域の活動団体や多様な関係機関・企業等との連携により、魅力ある道路景観を守り育てる取組や、道内各地へのドライブ観光需要を喚起して、周辺観光資源と合わせた周遊を促進するための情報発信を促進。
- (国研)土木研究所寒地土木研究所と連携し、良好な景観形成に資する屋外公共空間の評価、魅力向上及び利活用促進に関する技術研究開発を推進。

## ■シーニックバイウェイ「秀逸な道」選定区間

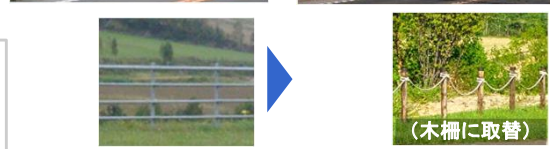


## ■良好な景観の維持・形成

・道路管理者による取組例～道路附属物の集約等



・眺望を楽しめる沿道休憩施設の整備・リニューアル



## ■ドライブ観光の促進に向けた取組事例

- ・シーニックバイウェイ「秀逸な道」現地看板設置
- ・ドライブ観光促進に向けスタンプラリー実施

秀逸な道でもスタンプGET!

シーニックデッキ & カフェ スマホスタンプラリー2023に参加しよう! 2023年7月1日～2024年1月31日

スタンプを集めてプレゼントをゲット! 抽選で特産品などが当たります。

スタンプ地点は90箇所以上! ここでチェック!

※特別によりスタンプ禁止している施設があります。

よりみち HOKKAIDO シーニックバイウェイ北海道

3

# ドライブ観光の推進 ②サステナブルツーリズム調査(インバウンドの意識)

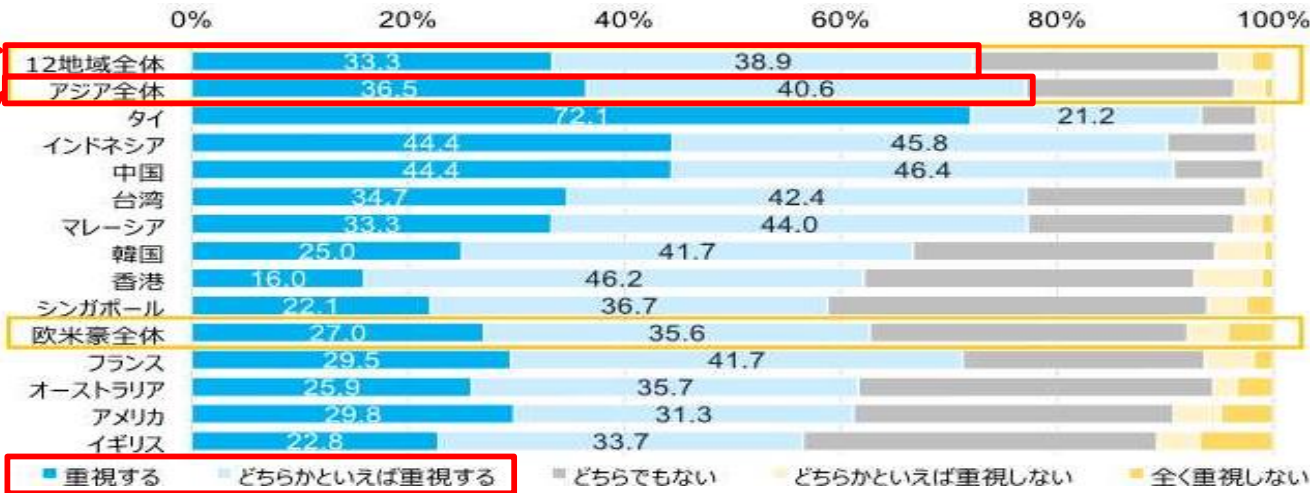
- 「海外旅行にてサステナブルな取組を重視するか」との設問に関して、7割以上もの外国人旅行者が重視する意向を示しており、特にアジア諸国がより高い意向を示している。
- 外国人旅行者の20代の約8割がサステナブルな取組を重視する傾向にある。

## 外国人旅行者のサステナブルな取り組みに対する傾向

7割以上がサステナブルな取組を重視する傾向

特にアジア諸国がより高い意向を示している。

■Q.海外旅行の訪問先や宿泊施設を検討する際に、サステナブルな取組を行っていることを重視するか。



2021年10月5日～19日  
 東アジア諸国(韓国、中国、台湾、香港)、東南アジア諸国(タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア)、欧米豪諸国(アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランス)  
 有効回答者数(20～59歳)6,294人

出典:2022年3月(株)日本政策投資銀行北海道支店「サステナブルツーリズムの現状と北海道における今後の方向性～持続可能な観光地づくりの推進に向けて～」(「DBJ・JTBFアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査(第3回新型コロナウイルス影響度特別調査)」のアンケート結果をもとにDBJ作成)

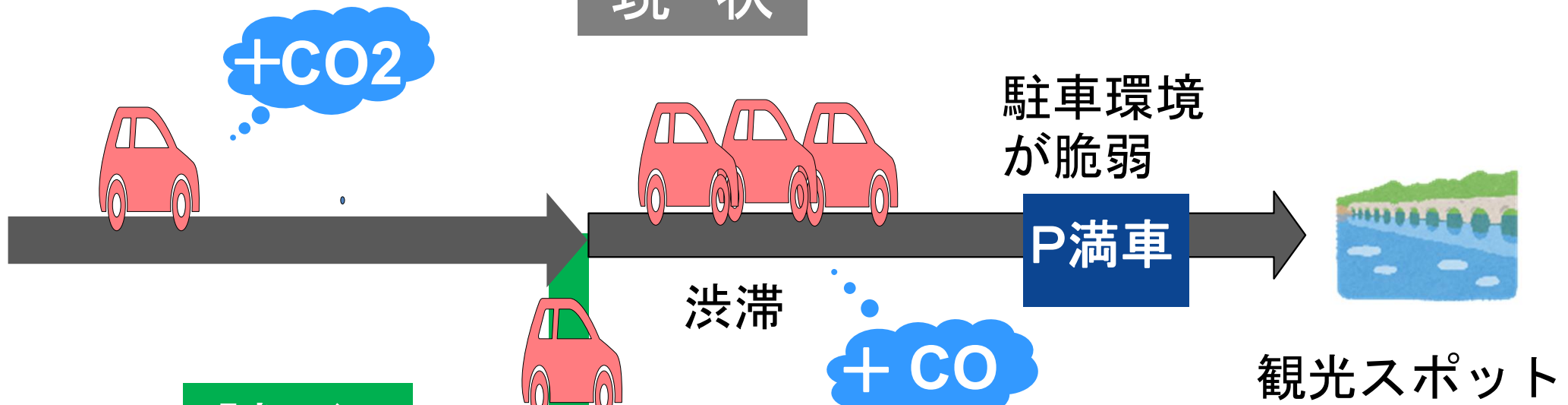
20代の8割がサステナブルな取組を重視

特に東南アジアの20代、30代の8割以上がサステナブルな取組を重視

■上記質問に対する「重視する」、「どちらかといえば重視する」との地域・年代別回答割合 (年代×収入別)

地域	年代	回答割合 (%)				
		低収入者層	中収入者層	高収入者層		
全体	20代	76.1	77.9	79.4		
	30代	74.8	74.5	76.8		
	40代	66.4	73.2	74.5		
	50代	57.6	66.2	67.9		
	東アジア	20代	71.1	75.4	73.9	
		30代	77.5	76.7	76.1	
		40代	76.8	81.6	74.1	
		50代	62.0	70.1	75.8	
		東南アジア	20代	87.4	82.5	86.6
			30代	83.3	84.6	81.8
			40代	79.5	76.0	82.1
			50代	61.4	73.9	76.0
欧米豪			20代	58.4	75.7	79.8
			30代	62.7	63.5	72.8
			40代	41.0	60.4	66.4
			50代	43.1	54.3	50.3

現状

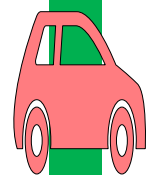


試行

「道の駅」に駐車し、  
ゼロカーボンモビリティ  
に乗り換え



道の駅



ゼロカーボン  
モビリティ

-CO2



○ 世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、安全で快適な自転車走行環境やサイクリストの受入環境の改善、情報発信等の取組を推進する。

## 【現状・背景】

- 「世界水準のサイクリング環境」構築に向け、令和元年8月に北海道サイクルルート連携協議会を設立し、北海道のサイクルツーリズム推進方針を策定。現在、全道9ルートにおいて受入環境整備の取組を推進。（令和5年3月に「オロロンライン・サイクルルート」がサイクルルートとして新たに追加）
- 令和3年5月には日本を代表するナショナルサイクルルートにトカプチ400が指定。

## 【取組】

○全道各地のルート協議会で策定されたアクションプランにより、民間と行政が一体となってサイクルルートの受入環境・自転車走行環境の改善、情報発信を推進。

### ※主な取組事例

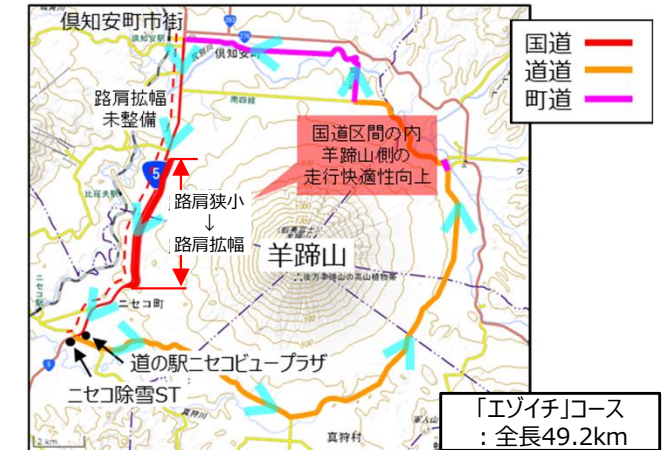
- 受入環境改善：駅等ルート起終点の交通拠点におけるサイクルラック・トイレの設置等、休憩施設の設置等
- 走行環境改善：ルート案内看板・矢羽根路面標示設置
- 情報発信：ホームページでのルートPR等

## ■ルート協議会の登録状況



## ■羊蹄ニセコエリアサイクルルートの事例

・国道5号の路肩狭小区間の拡幅により、羊蹄山を一周する「エゾイチ」コースの走行快適性が向上



## ■サイクルツーリズム推進に向けた取組事例

- ・魅力的な北海道の観光資源を活かし、サイクルルートを舞台としたフォトコンテストを開催
- ・今後一層の誘客に向け、関係者が一堂に会する推進フォーラムを開催

**サイクルルート北海道 フォトコンテスト2023**

2023年 7月1日(土)～9月30日(土)

北海道内のサイクルルートを走りながら、写真を撮影・投稿しよう！

Step1 写真撮影・投稿しよう！

Step2 写真審査・発表会開催

Step3 表彰式・記念撮影

サイクルルートフォトコンテスト実行委員会

**北海道のサイクルツーリズム 推進フォーラム**

令和5年7月21日(金) 14:30～17:00 (開場14:00)

札幌パークホテル 地下2階 パークプラザ

入場無料  
7月19日(水)申込締切 定員150名

高橋 清氏 実行委員会 会長

- ・サイクリストに立ち寄りて楽しんでいただく取組として「サイクルカフェ」を開始（29施設を位置付け）



- 地域の歴史、産業、文化、食をテーマに地域の発展のストーリー等を実感できる「インフラわくわくツアー」など、地域と連携したインフラツーリズムの取組を推進する。
- ポストコロナにおける修学旅行などの教育旅行の再開を見据え、インフラ施設等を活用したコンテンツ提供を推進する。
- 農山漁村の所得向上と地域の活性化を図る農泊（渚泊）、みなとオアシスにおける交流イベント等、地域資源を活かした取組を促進する。

## 【現状・背景】

- 平成25年度から「公共施設見学ツアー」、令和元年度から「インフラわくわくツアー」を実施。
- 「インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト」のモデル地区に選定された白鳥大橋（室蘭市）において、令和3年6月に地域と施設利用協定を締結し、地域主体によるツアーを開始。
- 農泊（渚泊）は、農山漁村振興交付金（農山漁村発イノベーション対策のうち農山漁村発イノベーション推進・整備事業【農泊推進型】）でこれまでに48地域が採択。地域資源を最大限活用し、多様な体験メニュー等を導入した取組を促進。また、みなとオアシスは12箇所登録済。

## 【取組】

- インフラ施設とその周辺地域の観光コンテンツを組み合わせた魅力的なモデルツアーを実施するなど、インフラツーリズムの取組を推進。
- 教育機関と連携を図りながら、インフラ施設や工事現場を活用したコンテンツの提供を推進。
- 古民家等を活用した滞在施設の整備や専門家の派遣等を通じ、農泊（渚泊）を更に促進。また、みなとオアシスにおける交流イベント等を通じ、観光交流を促進。

## 【インフラツーリズム】

インフラ施設と周辺観光施設を組み合わせたモデルツアーの実施(古平漁港)



地域主導のインフラツーリズムへの支援(白鳥大橋)



公共施設見学ツアーを活用したコンテンツの提供



## 【農泊(渚泊)】

畜産体験における子牛のミルクやり(八雲町)



## 【みなとオアシス】

みなとオアシス Sea級グルメ北海道大会in室蘭





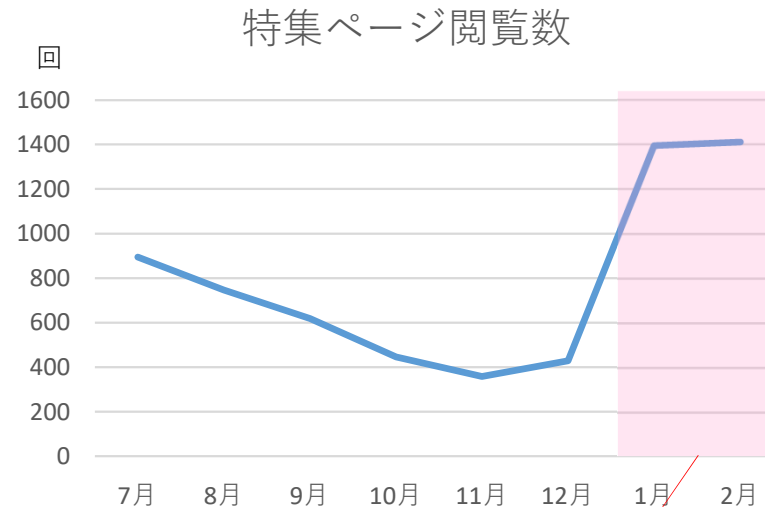
# 観光コンテンツや二次交通情報の一元的な情報発信調査(根室地域への旅行者誘客調査)

根室地域※のアフターコロナにおける観光振興のため、魅力的な観光コンテンツや二次交通の情報をWEBサイトにて一元的に発信するとともに、WEBサイトのアクセス解析、SNS等による情報発信を実施し、有効性を検証。

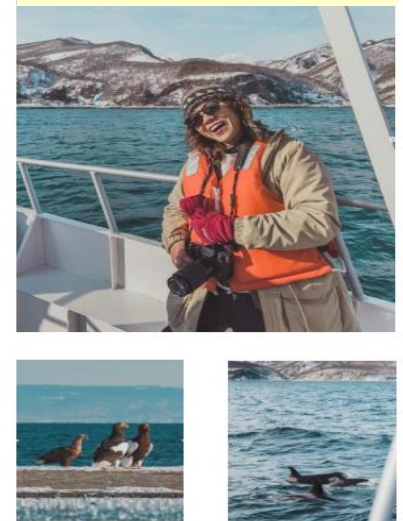
※根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町

自然や文化を活かした体験観光の予約販売を提供するプラットフォームであるアソビューにおいて、特集ページを作成し、情報発信を実施。

SNSによる広告やインフルエンサーの情報発信により、アソビュー特集ページの閲覧件数が増加した。



インフルエンサーYURIE氏のSNS発信状況



網掛け部分はSNS発信を実施した期間  
 SNS広告配信：1月6日～1月31日  
 インフルエンサーによる配信：2月5日～2月15日

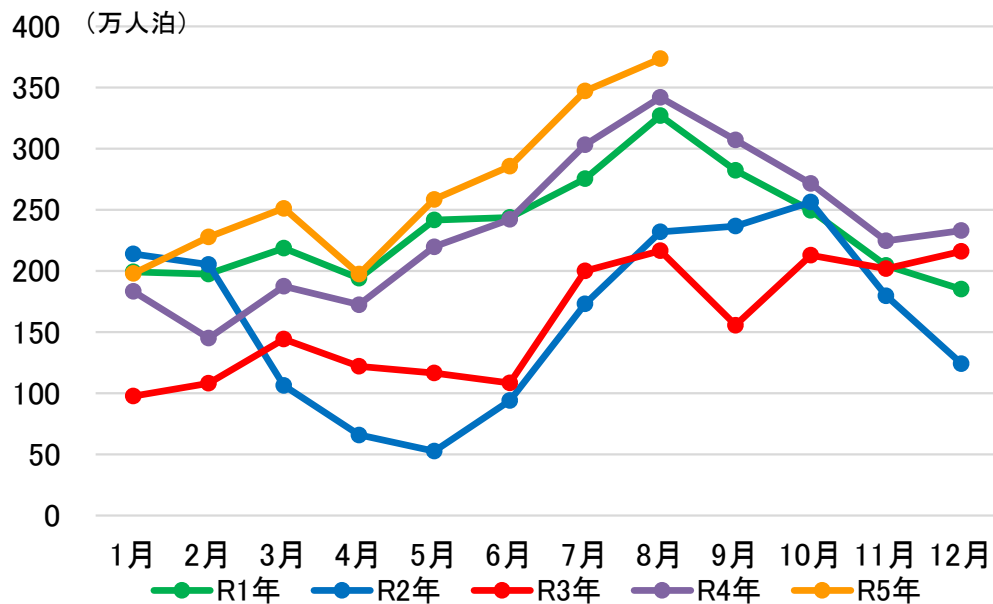
・OTA(インターネット上だけで取引を行う旅行会社)を通じたプロモーションによって、旅行者がどう反応し、どう動いて結果に結びついたかが実感できた。この事業で得られた調査の結果を、今後の取組に役立てていきたい。

(知床ねむろ観光連盟)

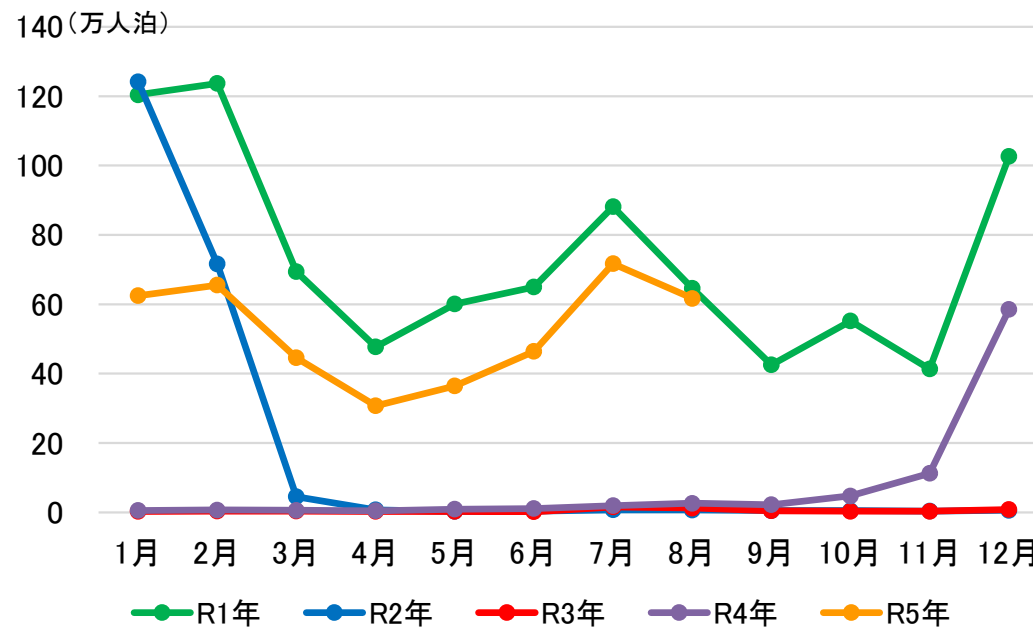
・造成商品の体験企画の料金が4万円という設定があったが、決して高いものではない。価値あるものに対して旅行者は理解する。地域はそのために努力し、収益を確保する。そのことは持続可能な観光につながっていくことになる。

(アドバイザー札幌国際大学教授)

## 日本人月別延べ宿泊者数の推移（全道）



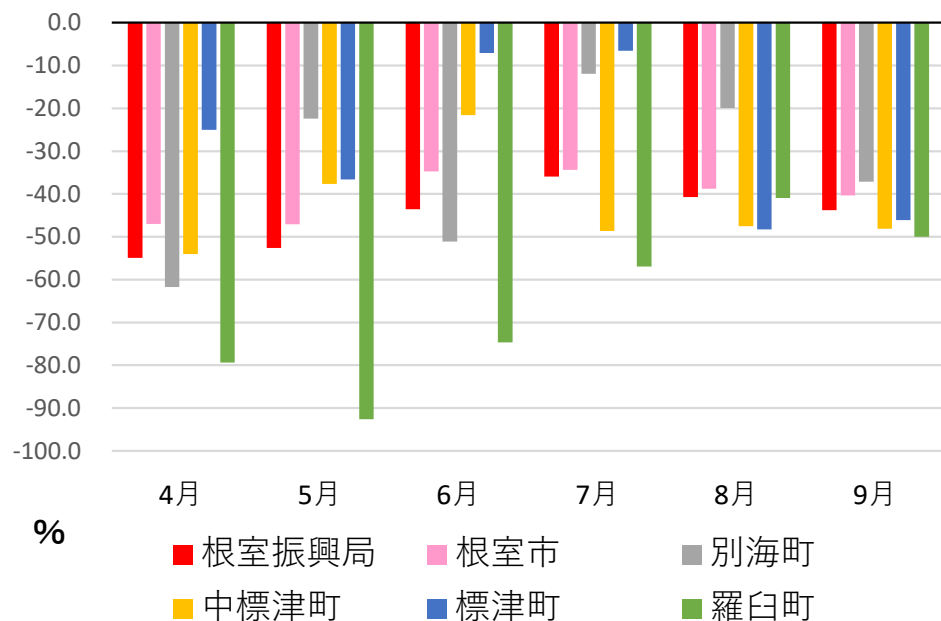
## 来道外国人月別延べ宿泊者数の推移（全道）



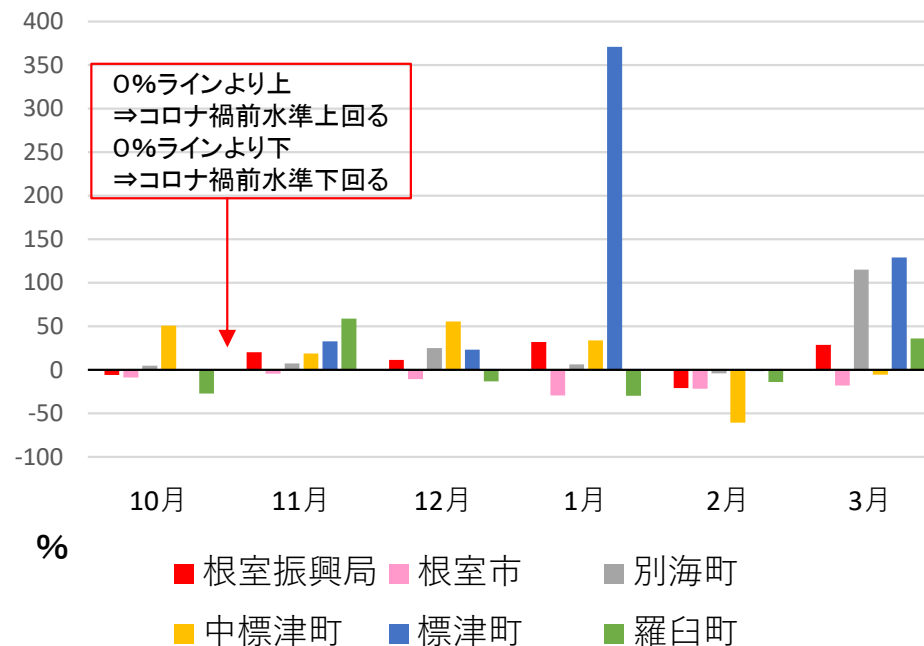
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成  
 注：月別延べ宿泊者数の令和5年1月～は速報値。

# 【根室管内】コロナ禍前との比較(令和元年(2019年)度同月比)

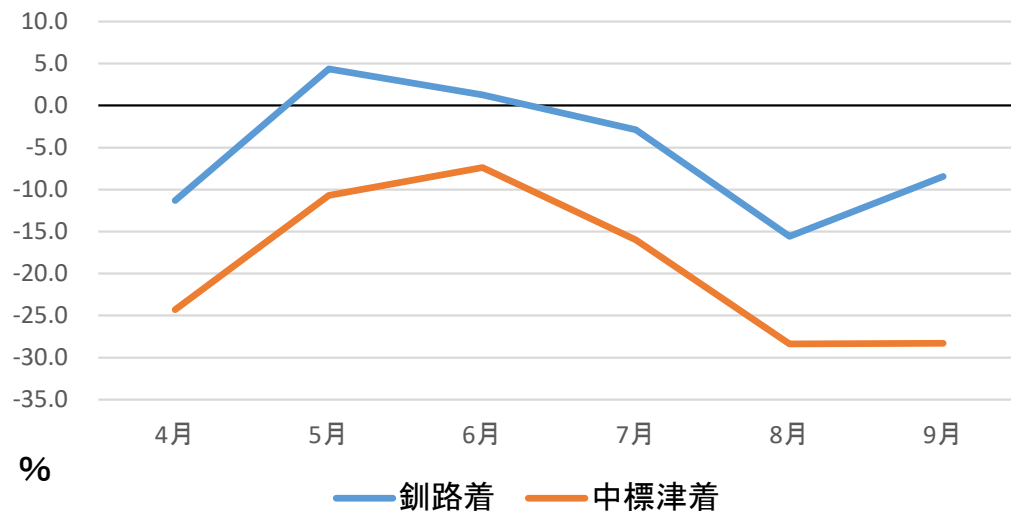
## 入込客数令和元年度同月比 (R4上半期)



## 入込客数令和元年度同月比 (R4下半期)



## (参考)R5空港別来道者の令和元年度同月比



### 【入込客数に関する注釈】

- ・コロナ禍の影響で2020年3月は全市町で大幅に減少していたので、2020年3月については比率算出の対象となるデータとして2019年3月を採用している。
- ・標津町の2023年1月については入込客数で約3万人であった。例年、標津町の1月は2万人～3万人の入込があるが、比率算出の対象となる2020年1月は6千人程度の入込となっていたため、対2019年度比で大幅に上昇した結果となっている。(2023年1月に大幅に増加したのではなく、2020年1月が例年よりも少なかったため、2019年度比で大幅に上昇している)